

ボランティア かわら版

ボランティア活動
の四原則

自主・自発性

自らの「やってみたい」で

公共性

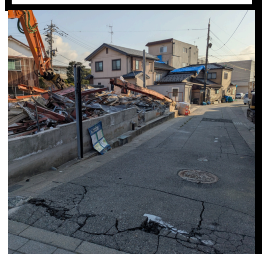
社会を豊かにして

無報酬性

見返りを求めず

継続性

無理なく続ける



災害ボランティアバス運行①

石川県輪島市へ向けて本会から、災害ボランティアバスを5月30日～31日で運行しました。参加者は19名。うち、災害ボランティアに初めて参加する方は10名でした。

まず、初日は、輪島市在住のAさんBさんに①当時の様子②現在の復興状況③災害の備えについて伺いました。

①については、地震発生時に高齢者施設で勤務していたAさん。電話・電気も通じず外部との連絡や情報も届かな

い状態だったそうです。「高齢者の多くは認知症を患っており、何が起ったのかお伝えできない状況だった。中でも非常時のトイレの使い方が理解できず混乱した」「助けも呼べず、助けも来ない中、3日間施設で利用者さんと過ごし、自宅に帰れなかった」と伺いました。

また、Bさんは「自宅に大きな被害があり、しばらくの間、危険な状況と現実が受け入れられず自宅に入ることができなかった」そうです。私たち

が訪問した後、自宅の解体を決定したと伺いました。

②復興状況については、お二方とも復興しているとは思えない。「何年、何十年と掛かるのではないかと感じている」「知り合いも引越した方が多く、自分の事が自分でできる人しかこの地には残れない。高齢者や障がい者など福祉サービスの利用が必要な方はここでの生活は難しいと思う」と話してくれました。

③備えておくと良いのは、「まず、トイレ。ボタンで水が流れるトイレは電気が使えないと流せない。レバータイプであればタンクに水を入れれば使えるかもしれない」次に「携帯電話の回線を、家族で違う会社にしておくとよい。今回、家族みんな同じ携

帯会社にしていたため、基地局が壊れ、連絡がつかなかったこと、災害の情報が取得できなくなったため、家族の中でも違う携帯会社がよいと感じた」他には、「車のガソリンを常に入れておいた方がよい。避難所に行けなく、車で宿泊したり、車のナビでテレビを観て情報を得たりしたため、ガソリンは常に入れておいた方がよいと思う」最後に、二人から「能登のことを忘れないで」とメッセージをもらいました。報道は減り過去のことと思われがちですが、今も多くの方が仮設住宅生活、大切な家を壊すなど苦渋の選択を迫られていることが同じ国の中であることを忘れないでほしいとのメッセージだと受け留めました。

最後に、二人から「能登のことを忘れないで」とメッセージをもらいました。報道は減り過去のことと思われがちですが、今も多くの方が仮設住宅生活、大切な家を壊すなど苦渋の選択を迫られていることが同じ国の中であることを忘れないでほしいとのメッセージだと受け留めました。

今回の
トピックス

4選

1 災害ボランティアバス運行①

2 災害ボランティアバス運行②

3 ボランティア情報



災害ボランティアバス運行②

翌日は、輪島市災害ささえあいセンターにて、災害ボランティア活動を2班に分かれて行いました。

1班は、豪雨災害によって裏山が崩れ、自宅裏のU字溝が土砂で埋ってしまったので掻きだして欲しいとの依頼でした。

具体的な活動は、U字溝にたまった土砂を、スコップで掻きだし、バケツに入れて、バケツリレーで捨てるという作業の繰り返しでした。

みんなの協力のもと、何とか依頼内容が完了しました。

2班への依頼は、地域の用



土砂の掻きだし作業

水路が土砂で埋まり、地域住民で土砂は掻き出し土のう袋に入れたが集積所まで運搬ができないので、運搬を手伝って欲しいとの依頼でした。

具体的な活動は、土のう袋を軽トラックに乗せ、車で数10分離れた集積所まで運び、土のう袋に入った土砂のみ捨てるという作業を繰り返しました。土砂の量が多く、一日では終了しませんでした。

参加者の方からは、「女性



土砂の廃棄作業

でもできることがあるかと初めは不安でしたが、それぞれができることで活動ができてよかった。また機会があれば

災害ボランティアに参加したい」と感想をいただきました。

本会では、災害ボランティアに関する相談も随時受け付けています。被災地支援をしたい方はもちろん。被災地で活動してきた報告なども大歓迎です。

講演会のお知らせ

3+防災とは、「災害時に自分のいのちを守り、守ったいのちで他者を助ける」

日進市・長久手市の地域のみならずと名古屋学芸大学の学生・教職員が共に防災を学び、家庭や職場で災害に備えていただき「地域の防災力が向上すること」を目的としています。

一人ひとりの防災意識を高め、地域全体の防災力向上につながるよう、全3回講座で防災を学びます。

第1回目はD-I-Gを考案さ

れた常葉大学准教授 小村隆史先生をお招きして、「テーマ：南海トラフ地震発生までの残された時間をどう活かすか」を「参加型」内容で学んでいきます。



講師

常葉大学
社会環境学部 社会環境学科
小村 隆史 准教授

防衛庁(当時)防衛研究所在職中の1997年、災害向上訓練DIGの想を得る。2000年4月、日本初の防災学部を持つ富士常葉大学(当時)の開学と共に在任、現在に至る。

申し込みはこちらから



南海トラフ地震発生までの

残された時間をどう活かすか

地図から『災害の物語』を読み解き、地図の前に『防災の物語』を語り継ぐ。
南海トラフ地震という「時代の宿命」を考える時、残された時間をどう使いますか。
「このまま何もせずにいたらある時どうなるか」「手のひら二つ分と手を広げて二人分」
内陸型地震とは規模感が全く違う南海トラフ地震のことをあなたはどれだけ知っていますか。

2025 9月20日(土) 2025年度 第1回 学ぼうBousai みんなでBousai 地域のBousai (3+防災)

講演時間 13:00~16:00

参加費無料 12:30より受付

会場 名古屋学芸大学
6号館2階 621講義室

名古屋学芸大学 サービスラーニングセンターHP
[トップページ/お知らせ]より
詳細・申込方法をご確認ください。

対象 地域のみなさま(日進市・長久手市)、学生、教職員 主催 名古屋学芸大学 サービスラーニングセンター

3+防災とは?

「災害時に自分のいのちを守り、守ったいのちで他者を助ける」
日進市・長久手市の「地域のみなさま」と大学の「学生・教職員」が共に防災を学び、家庭や職場で災害に備えていただき「地域の防災力が向上すること」を目的としています。一人ひとりの防災意識を高め、地域全体の防災力向上につながるよう、全3回講座で防災を学びます。

「3+防災」の問合先は、名古屋学芸大学サービスラーニングセンターへ TEL0561-75-2188

問合先 長久手市社会福祉協議会ボランティアセンター ☎0561-61-3434

ボランティア情報

心をつなぐ、笑顔の時間



長久手市蟹原

身体・知的・精神障がいのある方が通う、施設でのボランティアです。利用者さんとお話相手や、おやつなどを召し上がる時の見守り、時には外出レクの際の付き添いなどを行います。見学大歓迎！

■ 日 時：月～土 10時～15時の間で要相談

■ 施設名：生活介護 きんつば

世代を超えた交流の場



長久手市根嶽

幼児から高齢者地域交流スペースでのボランティアです。そこに集う人たちとの会話がメインのボランティアです。

ボランティアはじめたい方にお勧めです。

■ 日 時：月～日 9時～18時の間で要相談

■ 施設名：どんぐりの杜

遊びと学びの見守り役



長久手市蟹原

地域の集会所で、学校が終わった後に小学生が過ごせる場所を提供している「こどものいえ・カニハラ」。子どもたちと一緒に遊んだり、宿題をみたりするボランティアを募集しています。

■ 日 時：月・木 15時～18時の間で要相談

■ 施設名：こどものいえ・カニハラ

笑顔あふれるひととき



長久手市作田

障がいのある児童などが学校～自宅に帰るまでに過ごす場です。一緒におやつを作ったり、それぞれが時間を過ごせるように見守ったり、お話相手をするボランティアを募集しています。

■ 日 時：月～金 16時～18時の間で要相談

■ 施設名：創楽（日中一時支援）

笑顔あふれるひととき②



長久手市作田

障がいのある児童などと一緒に昼食やおやつ作りをしたり、おでかけレクリエーション（カラオケ・映画など）の同行をしてくれるボランティアを募集しています。

■ 日 時：第2・4土 ①10時～13時の間で要相談

②14時～17時の間で要相談

■ 施設名：創楽（日中一時支援）

みんなの食育ボランティア



保健センター・平成こども塾

市内の離乳食教室や、市内の小学生に郷土料理である『おこしもの』を作る企画を行っています。

企画を手伝ってくださるボランティアを募集しています。

■ 日 時：離乳食教室毎月1回・おこしもの2月予定

■ その他：研修がありますので、まずは、お電話ください。

■ 施設名：食と健康を考える会

ごはんであつなごう



北小校区共生ステーション

市内で子ども食堂を始めました！一緒に調理～片づけ、子ども達との交流をしてくださるボランティアを募集しています。まだ始まったばかりなので、一緒に盛り上げてくれる方大募集！！

■ 日 時：毎月第3日曜日 9:00～15:00

■ 施設名：子ども食堂 むすび

ボランティアが必要な施設さん募集

ボランティアセンターでは、ボランティアに来てほしい市内の高齢者・障がい者施設さんを募集しています。

- ・利用者さんの話相手をしてほしい
 - ・音楽などで誕生日会を盛り上げてほしい など
- まずは、本センターにご連絡ください。

ボランティア情報

ちゃぶ台研究会って？ 大学生ボラ求む！！

ちゃぶ台研究会、略してちゃぶ研は、市が洞小校区共生ステーションで開催しています。

共生ステーションには、たくさんの子どもたちが遊びに来ています。しかし、みんなゲーム機で遊んでばかり…

いろんな遊びをしてほしい。と思い立ち、始まったのがちゃぶ研です。

ちゃぶ研では、竹材を使った懐かしい遊び～トランプまで幅広い遊びで、子どもたちを楽しませています。

子どもたちと一緒に遊んでくれる大学生のボランティアさんぜひ来てください！！



- 日 時 : 毎週木 15時～17時の間で要相談
第4木 15時～19時30分の間で要相談
- 場 所 : 市が洞小校区共生ステーション
- 参加方法 : ボランティアセンターにご連絡ください。
- その他 : 第4木のみ 子どもたちに簡単な食事を提供しています。調理・配膳など未経験でもOKです。

ご家庭でできるボランティア

ボランティアセンターでは次のものを集めています。

- 古切手
- (缶の) プルトップ (アルミとスチールの分別必要)
- ベルマーク
- ペットボトルキャップ
- 書き損じのはがき
- 新品の文房具

編集・発行元

社会福祉法人
長久手市社会福祉協議会 ボランティアセンター

住所：長久手市前熊下田171

TEL：0561-61-3434

休館日：月曜日（祝日の場合は翌平日）

開館時間：9：00～17：00

